

( )年、第1次世界大戦は終結するが、戦争によって( )や( )では帝政が崩壊した。これらの国では民主主義が取り入れられるが、「若い民主主義」は弱体で、独裁者の台頭を阻むことはできなかった。イタリアのファシズムに対し、ドイツでは( )を国是とするヒトラーが政権を掌握するが、人種の純血化という政策によって、600万人にも上る( )が殺害された。

ナポレオン戦争後の( )体制とは異なり、第1次世界大戦後には( )という国際組織が設立され、平和の確立に貢献すべきとされた。しかし、( )が参加しなかったこともあり、弱体であった。第2次世界大戦後には、代わりに( )が創設された。大戦中の人権侵害、つまり、( )を反省し、総会では( )が採択された。

第2次世界大戦後、米ソ両国の力がますます強まり、ヨーロッパは2分される。特に敗戦国であるドイツは「西ドイツ」と「東ドイツ」の2つに分断される。西ドイツは米国だけではなく、( )と( )によって占領されることになった。他方、東ドイツを統治しちたのは( )である。東ドイツ内にあるベルリンは4つに分割され、上掲の4ヶ国によって占領されることになった。西側3国が( )を実施したことに反発し、ソ連は( )を行った。

ヨーロッパは鉄のカーテンで分断されていると述べたのは( )である。彼は、ヨーロッパ合衆国の創設を訴え、戦後のヨーロッパ統合のきっかけをつくった。なお、第1次世界大戦後には、オーストリアの( )も欧州統合の重要性を説いた。彼が推進した運動を( )と呼ぶ。

第2次世界大戦後、ヨーロッパ諸国は、国連のヨーロッパ版とも呼ばれる( )を創設した。また、世界人権宣言のヨーロッパ版とも言われる( )を採択した。第2次世界大戦は( )対「独裁」の戦いと捉えることもできるが、( )が確立されない平和は維持できず、( )も保護されないとの考えに基づき、戦後は、( )、平和の確立、人権尊重が重要な原則となる。